

授業概要

本講義では、「グローバル化」の下で経済の基本要素である労働力・商品・資本が国境を越えて活発に移動している現代において、EUのように「国境の障壁を低くする」動きがみられることも踏まえて、具体的に以下の点を取り上げつつ、国際経済の理論と現状を説明する。すなわち、国境を越える労働力の動き（国際労働力移動）、商品・サービスの動き（国際貿易）、資本の動き（国際金融）に加えて、関税障壁や非関税障壁を低下させる動き（経済統合）について、最新の動向も含めて解説する。

授業計画

第1回	イントロダクション: 国際経済論の全体像
第2回	国際貿易の理論: リカードとヘクシャー=オリーの比較生産費説
第3回	国際貿易の歴史と現状: GATTからWTOへ
第4回	国際金融の理論(1): 国際収支統計の基本構造
第5回	国際金融の理論(2): 通貨危機の要因に関する諸学説
第6回	国際金融の歴史: 国際金本位制からブレトン=ワッズ体制へ
第7回	国際金融の現状(1): アジア通貨危機の発生と展開
第8回	国際金融の現状(2): リーマン・ショックの発生と展開
第9回	国際労働力移動の理論: プッシュ=プル・モデルと世界システム論
第10回	国際労働力移動の歴史と現状: 移民の動態と労働者送金
第11回	講義の中間総括と中間試験
第12回	経済統合の理論: 経済統合の5段階説と最適通貨圏説
第13回	経済統合の歴史: 欧州共同体の成立と欧州統合の深化
第14回	経済統合の現状: アジア・太平洋における経済統合と経済連携協定
第15回	講義の総括
第16回	期末試験

到達目標

国際経済学における4つの分野、すなわち、(1) 国際労働力移動論、(2) 国際貿易論 (3) 国際金融論、(4) 経済統合論、の各分野における理論、歴史そして現状に関する知識を踏まえた上で、「グローバル化する現代世界において、労働力、商品、資本がいかに国境を越えて移動しているのか」という点について、理解を深めることを到達目標とする。

履修上の注意

私語など他の受講者が平穏に受講する権利を妨害する行為は、厳禁する（減点措置をとる）。
遅刻2回で欠席1回とみなす（減点措置をとる）。

予習復習

予習: 参考文献の該当箇所を適宜指示するので、予習を心がけること。
復習: 授業内容を確認するペーパーを適宜配布するので、復習を心がけること。

評価方法

以下の方法で成績を評価する。

1. 平常点（中間テスト等）：60%
2. 期末テスト（持ち込み不可）：40%

テキスト

教科書は指定しない。講義の際に適宜プリントを配布する。

参考文献は以下の通り。

SGCIME 編著『増補改訂版・現代経済の解説』御茶ノ水書房、田中素香他編著『現代国際金融』有斐閣、ウォーラスティン著『入門・世界システム分析』藤原書店、高屋定美著『EU経済』ミネルヴァ書房。